



時代を拓き 世界に貢献する人を目指して

Global View

2018年5月10日 Newsletter 第52号 仙台白百合学園中学・高等学校 国際教育部

「奉仕の心で地球とつながる」 国際教育部部長 大和田 美子(英語科)

2018年1年に第8回フィリピン・ボランティア・スタディーツアーが行われ、生徒達は多くの経験をして無事帰国しました。いよいよ来月5月にはお世話になった姉妹校セント・ポールカレッツジ・パッシング高校より13名の生徒さんが来日されホームステイをしながら、仙台白百合学園に通学し交流を深める予定です。

姉妹校セント・ポールカレッツジ・パッシング高校は白百合と同じくシャルトル聖パウロ修道女会のシスター達によって設立された学校で、パッシング校(メトロマニラ東部パッシング市)のほか、マニラ校(マニラ市)、ダバオ校(ミンダナオ島)などフィリピンにいくつもの姉妹校をもつ名門校です。14歳(1年生)から17歳(4年生)までの年齢の生徒が通っており比較的裕福な家庭の子女が多い学校です。

2004年からスタートしたコース制のL I コースの特色として位置づけられスタートしたフィリピン・ボランティア・スタディーツアーは第1回から第3回までは夏休みの時期に実施されましたが、第4回の2009年にインフルエンザの流行があり冬休みに移りました。2012年1月に行われた第5回フィリピン・ボランティア・スタディーツアーは東日本大震災後ということもあり、参加する生徒が少なくなるのではという懸念されましたが、生徒たちの熱心な参加があり30名という人数で継続することができました。

私はその時、引率をさせていただきましたが震災後の私たちを励まそうと行く先々で盛大に歓迎していただき、どんなに励まされたかは言葉に表せないほどでした。そして同じ年の2012年7月にはポーランドから8名の生徒達が初めて仙台白百合学園に訪問してくれ、仙台白百合学園とポーランドの友好訪問がスタートしました。

次の文は震災後の私たちを励ましてくれたポーランドからのメッセージの一部です。

「あなたは、ひとりで苦しんでいる友を見たらどうする？

目で友の苦しみに触れます。—あなたの目が不自由だったら？

耳で友の苦しみに触れます。—あなたの耳が不自由だったら？

手で友の苦しみに触れます。—あなたの手が不自由だったら？

心で友の苦しみに触れます。—相手が気づかなかつたら？

そうです。相手に気づかれないように、そっとうつまでもその苦しみに触れていきたいのです。」

仙台白百合学園の国際交流が他にはないすばらしさがあるのはなぜでしょう。それは単なる異文化体験に留まらず、お互いを尊敬しい相手のために何か役立つ存在であるということを確認しあう交流となっているからだと思います。根底にあるのは「奉仕の心で世界につながる」精神だと思います。これからもその精神を生徒達に広め大切にしていきたいです。

さて先日ご案内をさせていただきましたが、現在フィリピンから5月に日本を訪れる生徒達のホストファミリーを募集中です。ぜひご協力をいただけますとありがたいです。よろしくおねがいいたします。